

令和6年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立図書館 (千代田図書館、日比谷図書文化館、四 番町図書館、昌平まちかど図書館、神田 まちかど図書館)	所在地	【千代田】千代田区九段南1-2-1 【日比谷】千代田区日比谷公園1-4 【四番町】千代田区三番町14-7 【昌平まちかど】千代田区外神田3-4-7 【神田まちかど】千代田区神田司町2-16
-----	--	-----	--

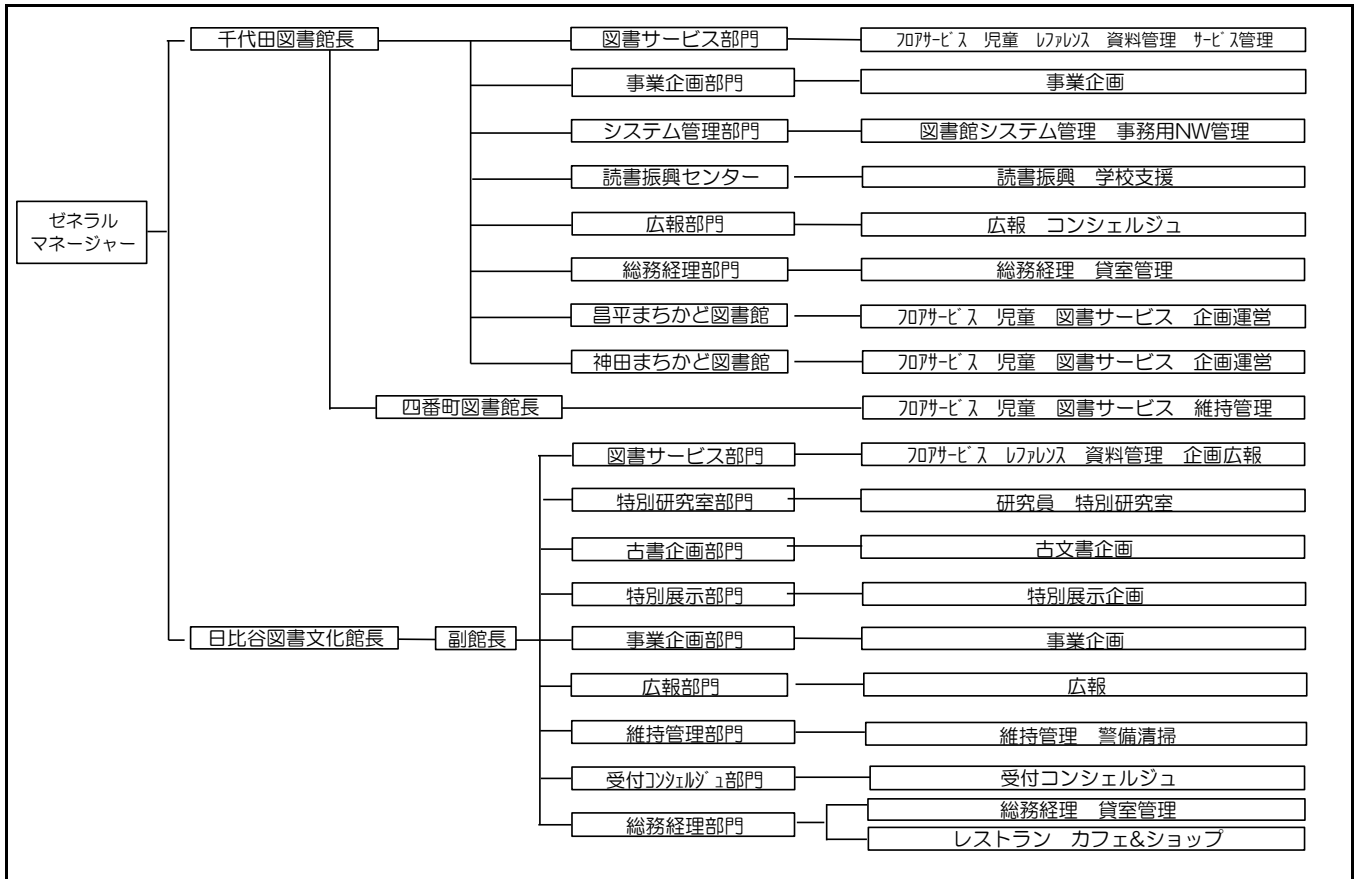
1 指定管理者の概要

名 称	千代田ルネッサンスグループ	代 表 者	【代表団体】 ㈱小学館集英社プロダクション 代表取締役 松井 聡 【構成団体】 ㈱ヴィアックス 代表取締役 西門 直 ㈱図書館流通センター 代表取締役 谷一 文子 サントリーパブリシティサービス㈱ 代表取締役 千 大輔 ㈱シェアード・ビジョン 代表取締役 小出 元一 大星ビル管理㈱ 代表取締役 寺島 剛紀
所在地	千代田区神田神保町2-30		
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	報告期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日

2 管理施設の概要

施設の目的	区立図書館の伝統と新しい行政に取り組む千代田区の特色を生かし、文化情報資源の総合センターとしての役割を担い、基本的な図書館サービスの拡充や区民の生涯学習に資する。
管 理 業 務 の 内 容	(1) 図書館の利用に関する業務 (2) 図書館の事業の実施に関する業務 (3) その他、館の運営に関し必要と認める業務

3 管理体制の状況



4 事業実績等

(1) 来館者数

	千代田図書館	日比谷図書文化館	四番町図書館	昌平まちかど図書館	神田まちかど図書館
令和6年度	437,145人	556,037人	116,591人	70,617人	106,294人
令和5年度	394,278人	521,501人	116,609人	66,593人	100,609人
令和4年度	302,006人	450,469人	120,542人	59,832人	89,506人

(2) 図書館業務（令和6年度）

施設名	登録者数	蔵書数	貸出数（団体貸出を含む）	レファレンス受付件数	データベース利用件数
千代田図書館	19,577人	219,040点	237,704点	4,623件	3,203件
日比谷図書文化館	22,621人	240,094点	138,745点	1,716件	1,419件
四番町図書館	5,349人	102,236点	215,572点	222件	-
昌平まちかど図書館	2,317人	30,461点	60,498点	-	-
神田まちかど図書館	3,764人	28,690点	132,817点	-	-

5 収支の状況

収 入		支 出	
指定管理料（図書館事業運営）	836,844,414円	人件費	551,015,503円
指定管理料（学校図書館等司書派遣）	61,353,000円	資料費	85,078,579円
研修室、会議室、ホール利用料	29,955,600円	システム運営費	2,673,591円
レストラン、ショップ&カフェ販売料等	76,513,891円	広報費	13,336,271円
日比谷カレッジ受講料	4,768,551円	一般運営費	37,655,891円
特別研究席利用料、日比谷ラボラトリー売上	1,894,800円	維持管理費	174,092,819円
特別展入場料	1,722,600円	一般管理費	20,370,370円
コピーサービス利用料、共催費	2,264,770円	事業費	180,140,059円
合計（①）	1,015,317,626円	合計（②）	1,064,363,083円
収支差額（①－②）	-49,045,457円		

6 指定管理者による自己評価

サービス提供に関して	収支に関して
来館者数は前年度と比べると、わずかに減少した四番町図書館以外は、いずれも増加となりました。Web図書館など非来館者サービスが好調であることの裏返しや、猛暑やゲリラ豪雨などの天候不順が続いた時期に、高齢者の来館が減少したことなどが影響していると考えられます。 資料の貸出は堅調に推移し、在住者の貸出が増え、図書館利用が区民の間に定着してきたと言えます。利用者満足度、蔵書満足度も高い結果でした。 レファレンス件数、データベース利用件数は減少傾向で、専門的な情報でもインターネットやAI等が発達し、個人の検索能力も向上した結果ではないかと考えています。 日比谷図書文化館の特別展では、「しりあがりさんとタイムトラベル江戸×東京」展、「実録 桜田門外の変」展の2つを開催し、どちらも千代田区にゆかりのあるテーマ設定で、10,388名の来場がありました。入場料は一般300円から500円に値上げしましたが、入場者数は前年度の有料の特別展と比べても同水準でした。 レストラン、ショップ&カフェ来客数は前年度から9,000名弱上回りました。令和元年度からは80%程度の回復です。カフェはランチタイムの混雑時はカウンターを2名体制にするなど、利用者への利便性向上にも配慮しています。	レストラン・ショップ&カフェ販売料等、日比谷カレッジ受講料、特別展示室入場料などの収入は、前年度よりも全体的に伸びたものの、研修室、会議室、ホール利用料は若干下回りました。一方、物価高騰により支出（主に事業費）の負担が大きく、収支差額はマイナスとなりました。 【収入】 コロナ禍が本格的に明けて、実績は予算に対して、貸室約9割、レストラン約8割強、日比谷カレッジ等の講座8割まで回復しましたが、その他は、特別研究席5割強、特別展示売上4割強、コピーサービス約7割にとどまりました。光熱費高騰の影響による指定管理料の増額変更がありました。 【支出】 人件費、資料費、運営費は、予算に対して0.2%以内の差額に抑えられました。資料費では、四番町図書館と両まちかど図書館の新規購入や汚破損等による資料の買換えを優先し、またWeb図書館のデジタルコンテンツや視聴覚資料の充実を図り、その分千代田図書館の資料費を抑えました。

7 区による評価・業務改善要求

前年度と比較して、資料貸出数は横ばいではあるものの、来館者数は増加傾向にあり、利用満足度の調査結果は各館とも90%以上が満足と高い評価を得ている。また、蔵書については出版社と連携した欠本調査を行っており、各館とも蔵書満足度が約90%という評価を得ている。これらは指定管理者が利用者サービスの向上に努めた結果と評価できる。さらに、デジタル化が進展する中で、電子書籍などのWeb図書館の充実も図り、誰もが手軽に知識や情報にアクセスできる環境づくりを推進しているところであり、引き続きよりよい図書館運営を推進してほしい。

8 今後の指定管理に区が期待すること

指定管理者提案事業として開始した図書館公式YouTubeを活用した情報発信において、神保町の古書店を紹介した動画で視聴回数を伸ばしている。今後も古書店や本に関する産業等が集積する千代田区の地域特性を活かして、本に関する様々な情報の発信に期待する。

また、SNSや生成AI等の利用が急速に進む昨今、インターネット空間等には真偽の不確かな情報も混じっている。情報リテラシーの向上につながる読書の力や図書館の重要性は高まっており、図書館ならではの取り組みの推進を期待する。